答　　辞（第32回卒業証書授与式）

校舎のまわりの雪も溶け、心を和ませる暖かい春の兆しが見えてきました。この春の訪れとともに、私たち、第三十二期生は、本日、卒業の日を迎えることになりました。

先生方、在校生の皆さん、このような素晴らしい卒業式を挙げていただき、本当にありがとうございます。そして、来賓の皆様、保護者の皆様、本日はお忙しい中、私たちのために足をお運びいただき、そして、お祝いの言葉や激励の言葉を賜り、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

こうして壇上に立ち、話をしていると様々な思いがよみがえると同時に、全員で学校に集まるのも最後なのだと、寂しさを感じます。

三年前、新しい制服に身を包み、迎えた入学式。以来、本校が掲げる文武両道を目指し、勉学と部活動に励んできました。考査前には、放課後残って、みんなで教え合っていた姿が、今も思い浮かびます。部活動では、時に苦しい場面にぶつかりながら、仲間と共に励まし合い、高みを目指してきました。学校祭や体育祭などの行事では、例年とは違う日程や短い準備期間に戸惑いながらも必死に取り組んだことは、より一層、絆を深めることができました。また、忘れることのできない見学旅行、大阪・京都・奈良・神戸と関西の文化にも触れることができ、台風の影響で、帰りの飛行機が、もしかしたら大阪に引き返すかもしれないというみんなの期待感。あれほど、みんなで笑ったり、はしゃいだ時間はなかったと思います。そして、迎えた三年生、厳しい受験や就職活動をみんなと共に歩んできました。互いに励まし合い、合格がわかった時は、クラス全員で喜び、苦しい時もみんなで乗り越えてきました。こうして創り上げてきた思い出や経験一つ一つが、私たちにとって、かけがえのないものとなっています。

私たちが、こうして成長してこられたのは、先生方、そして家族の存在があったからです。いつも私たちを陰ながら見守り、何かと問題があれば、一緒に悩んでくださり、私たちが間違った方向に進みそうになった時には、心を鬼にして叱ってくれたこともありました。本当にいつも支えられてきました。なかなか伝えることができずにいましたが、いつも感謝していました。

「お父さん、お母さんそして先生方、本当にありがとう」

私たちの高校生活は、今日で終わります。毎日の登下校の中、友人と悩みを語ったこと。休み時間や昼休み、ほっとしたみんなの表情。一瞬たりとも気を抜くことができなかった授業やよく立たされた授業。放課後、一人でいた時の教室の静けさ。など、多くの思い出とともに、何気なく過ごした日々が終わります。同時に新しい生活が始まります。これからは、それぞれの夢に向かい、努力していきます。そう考えると期待が膨らむ一方で、どこか不安も感じています。きっと、大きな困難が待ち受けていることと思います。しかし、この三年間の経験と思い出を胸に、しっかり前を向き、力強く歩いていきます。

在校生の皆さん、高校生活は本当に楽しく、あっという間に過ぎていきます。自分を見失うことがあるかもしれません。しかし、決して一人ではありません。互いに支え合いながら、一日一日を大切に過ごし、たくさんの思い出をつくってください。そして、その中でも、常に自分の目標を持ち、勉強にも手を抜かず、悔いのない高校生活を送ってください。私たちもみなさんを応援していきます。

最後になりますが、伊達緑丘高校の発展と皆さま方のご健康、さらなるご活躍を心よりお祈りし、答辞とさせていただきます。

平成２９年３月１日　卒業生代表　小林　紗香